

第81号 2010.8.17
高知県立幡多けんみん病院発行
〒788-0785
宿毛市山奈町芳奈3番地1
TEL (0880)66-2222(代)
http://www.pref.kochi.lg.jp/hata

病院ニュース

News Letter

a p r o f e s s i o n
〜専門職〜



『a p r o f e s s i o n』
では当院で働く『専門職』スタッ
フを取り上げ、その人の担当業
務や仕事に対する思いを紹介す
ることで、各『専門職』の内容
を知ってもらい、そんなスタッ
フが集まる病院の姿を知って
もらうことを目的としています。

今回は泌尿器科吉道先生に代
わり7月1日より着任されまし
た泌尿器科医師の大河内先生を
ご紹介します。



大河内 寿夫 先生

(医局 泌尿器科)



Q1 現在の職業(職種)を選択
した理由を教えてください。

A1 子どもの頃、病院に行く機
会が多かったせいか、いつの
まにかこの職業を希望するよ
うになっていました。

Q2 幡多けんみん病院の第一印
象を教えてください。

A2 5〜6年ほど前にも幡多け
んみん病院で働かせてもらっ
ていました。その時の印象は
立派な病院でそれぞれの専門
職の方々が一丸となっている
感じでした。

今回もその印象は変わりま
せん。

Q3 あなたの好きな言葉、あな
たの人生において指標として
いる言葉を教えてください。

A3 好きな言葉かどうかは分か
りませんが、いつも頭にある
のは「摂生」です。でも、全
く実践できません。

Q4 今後の抱負など、広報誌の
読者(院内スタッフ、患者さ
ん、その他一般の方)へのメッ
セージをぜひ!

A4 よく無愛想とか言われます
が、そんなことないと思って
いますので、気軽に話しかけ
てください。



**第8回日本医療マネジメント
学会高知県支部学術大会
開催のお知らせ**

平成22年8月22日（日）高知市文化プラザかるぽーとにおいて、第8回日本医療マネジメント学会高知県支部学術大会を開催いたします。

当学術大会は、クリティカルパスを中心に発足した日本医療マネジメント学会の支部会として平成15年度にスタートし、今年で第8回目となります。内容としては、①クリティカルパス②医療安全③院内感染④N S I⑤医療連携⑥電子カルテ⑦医療経営⑧患者サービス⑨人材育成等の幅広いテーマを予定しています。

また、特別講演を2題予定しております。



一つは高知県知事 尾崎直直氏から『高知の医療の充実に向けて』高知県の地域医療再生への取り組み』、二つ目は国立病院機構長崎医療センターの木村博典先生から『地域の医療の質を向上させるためにITをどう使うか』長崎あじさいネットの取り組みについて』について、それぞれ講演いただく予定です。

県内の医療機関関係者の方であれば、職種を問わずどなたでもご参加できます。是非、皆様の参加をお待ち申し上げます。

日時：平成22年8月22日（日）
午前9：30～午後4：00
会場：高知市文化プラザかるぽーと
高知市九反田2-1
(088) 833-5011
会費：1,000円
学生・初期研修医は参加費無料

やさしい食生活

栄養科



『知っていますか？「こ」食』

「早寝・早起き・朝ごはん」を基本に、夕食や休日にはできるだけ家族で食卓を囲み「食べること」の大切さ、楽しさを考える。

当たり前のようなことですが、生活環境の多様化によって、食生活の乱れ・生活習慣の乱れにつながっている方も少なくありません。

幼児期から高齢期までの食習慣で問題視されている『「こ」食』という言葉があります。

「孤食」…ひとりで食べる

「個食」…家族で食卓を囲んでも、それぞれが自分の好きなものを食べる

のを食べる

「固食」…自分の好きな決まったものしか食べない偏った食事もサプリメントの多用

「粉食」…パン、めん、お菓子などでおなかをいっぱいにする

「小食」…ダイエットなどで食べる量が極端に少ない

食べたいものが食べたいときに食べられるだけ手に入る環境は、豊かなように思いますが。しかし、よほど自分で食生活に配慮しなければ、心豊かな食卓・食生活には結びつかないのではないのでしょうか。

「おいしいね。」と会話を楽しみながら食卓を囲む。何気ないことですが忘れていませんか。ご家族やお友達と一緒に楽しむ工夫をしてみてください。



混ぜご飯

今回はカルシウムたっぷり、子どももお年寄りもパクパク食べられる混ぜご飯をご紹介します。

☆作り方

①しらすぼしをごま油で炒める。
②青菜（小松菜・大根葉・ほうれん草など）をゆがいて水気を切り、細かく刻む。

③ごはんは①と②、ごま、刻んだ青シソ、塩を加えて均一に混ぜ込む。

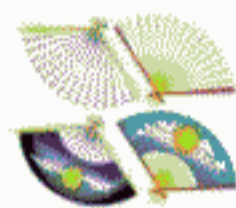
☆食欲のない時や、小食の方でも食がすすむごはんです。

いつものおかずに少しアレンジを加えたいときに試してみてください。



扇

編集スタッフ



暑い日が続き、夏本番と言ったところででしょうか。夏になると扇でパタパタと扇ぎながら涼を求める姿を見かけます。

「扇」は、うちわと同様に風を送るのに使う道具です。起源はうちわの方が古く、うちわは中国では紀元前に、古代エジプトでは壁画に描かれているほど古いものです。そんな古くからあるうちわを携帯できるように折りたためる形状にしたのは日本です。

扇の起源は、八世紀頃に木簡（木でできた短冊状のメモ帳のようなもの）を束ねて端に穴をあけ、紐でつないだものがはじまりといわれています。これを「檜扇（ひおうぎ）」と言います。

扇は、平安時代頃から、風を送って扇ぐだけでなく、装飾品、儀礼、贈答、そしてコミュニケーションの道具としても用いられるようになりました。日本では、扇に恋の歌や和歌を書いて送ったり、花を添えて送ったりしていました。

十七世紀頃のイギリスでは、上流階級の女性の間で「扇ことば」というのが大流行しました。「扇ことば」とは扇を使って行う仕草で相手に合図を送るものです。



その例をご紹介します。

＊扇を右手で顔の前に持つ

↓「私についてきて」

＊扇を開いて目を隠す

↓「あなたを愛している」

＊開いた扇をゆっくり地面におろす

↓「あなたを軽蔑します」

→こういった方法で単に風を送

る道具だけにとどまらず色々と利用されてきました。その他にも、能楽や狂言、落語などでは、扇を盃や短冊、箆に見立てたり、日本舞踊などの小道具としても用いられます。様々な儀式にも用いられ、和装の女性などは、懐剣の代用として扇を帯にさします。そして、「末広がりで縁起のいいものとしても扱われ、祝い膳などには扇を模したものが料理に添えられることもあり

ます。
このように、はじめは、風を送るだけの道具であったものが、様々な方法で利用され、人の気持ちを表す道具としてまでも用いられるようになってきました。最近ではなかなか日常生活で扇を利用する機会は少なくなりましたが、この夏、扇を使って涼しい風だけでなく、優しい想いを誰かに送ってみるのはいかがでしょうか。



病院の理念

1. 幡多けんみん病院は幡多地域における医療の中核となる病院として、地域の他の医療機関や保健・福祉・介護施設などとの連携のもとに、地域で完結できる、良質な医療の提供を目指します。
2. 地方公営企業として、地域医療をとおして地域の福祉の増進を目指しながら、企業としての経済性を発揮する運営をおこないます。

医療機関を受診される際は、**お薬の内容が分かるもの(薬剤情報提供書・お薬手帳など)**を持って行くようにしましょう！

私たちの目指す医療（基本方針）

1. 正確で間違いのない医療
2. 十分に説明をする医療
3. 透明性を大切にする医療
4. 患者さんの希望を大切にする医療

看護師（臨時）募集



臨時看護師、臨時准看護師を募集しています。

看護師免許を持っているのに、現在お仕事をしていない方、育児の空き時間を活用して仕事をしたい方、U・ターンで幡多地域へ戻ってきたい方。この機会にぜひ、幡多けんみん病院で働いてみませんか？
みなさまからの応募をお待ちしています。

詳細は、お問い合わせ下さい。個々の事情により相談に応じます。まずは、[この連絡を](#)...。当院ホームページもご覧ください。

お問い合わせ先

看護部長 中川 眞実
Tel 0880-661222
内線 6038

☆勤務体系など

①職種：看護師、准看護師

②勤務場所：外来及び病棟

③勤務時間：外来（8：30～17：15）

病棟 日 勤（8：30～17：15）

準夜勤（16：30～1：15）

深夜勤（0：30～9：15）

*勤務時間・勤務体制については、雇用形態により相談に応じます。

④雇用形態：臨時・アルバイト

⑤選考方法：随時面接

携行品：履歴書、看護師（准看護師）免許証



6月の統計

外来患者数	11,952人
新外来患者数	1,652人
紹介患者数	404人
新入院患者数	497人
退院患者数	511人
平均在院日数	13.3日
救急車・時間外患者数	1,072人
手術件数	179件

幡多けんみん病院における患者さんの権利

1. 患者さんは、良質な医療を平等に受ける権利をもっている。
2. 患者さんは、医療を受けるにあたり、十分な説明を受ける権利をもっている。
3. 患者さんは、プライバシーが守られることを期待する権利をもっている。
4. 患者さんは、自分の希望を伝え、医療に参加する権利をもっている。
5. 患者さんは、人間としての尊厳が守られることを期待する権利をもっている。